

地域おこし協力隊の
日々の活動はFacebookで！

Facebookでは4人の隊員が気づいた地域の
魅力や日々の活動の様子を発信しています。
併せてご覧ください！

<https://www.facebook.com/ishikari.chiikiokoshi>



①「厚田こだわり隊」の直売所前でメンバーと一緒に ②イベントで厚田をPR！ ③気持ちよかった濃昼山道トレッキング ④初めての歩くスキーにワクワク！ ⑤刺し網をロープに付けるお手伝い ⑥まき割りにチャレンジ ⑦浜益小の皆さんと田植え

厚田 & 浜益 まちをもっと元気に！ 地域おこし協力隊

都

市部など地域外の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域力の維持・強化を図る取り組み——それが「地域おこし協力隊」です。本市では、平成26年度から最長3年の任期で、厚田区と浜益区に4人の隊員を受け入れています。

隊員たちは、初めての土地に移り住み、当初は緊張していたものの、住民の皆さんの手助けもあり、少しずつ地域になじんでいきました。また、海や夕日、雪などの豊かな自然に感動したり、地域の方の温かさに心打たれたり、私たちが普段当たり前と思っていた何気ないことが、地域外から来た隊員には新鮮に映ったようです。そうした新たな視点と発想で、地域資源を生かした活動を行ってきました。今回はこれまでの活動を振り返りながら、今後ますます活躍が期待される隊員の様子をご紹介します！

問合せ 企画課 ☎72・3161

●地域おこし協力隊一口メモ

平成21年度に制度が創設され、年々隊員数が増加し、道内75市町村で225人、全国では1,511人が活動しています(平成26年度)。



厚田

地域おこし協力隊_活動報告



(上)レタスは鮮やかな緑色にするのが難しい!
(下)こだわり隊の皆さんと和やかに打ち合わせ



「厚田こだわり隊」は直売所だけでなく、地域内外問わずに、たくさんのイベントに出店して厚田の味覚をPRしています!

沼倉 瞳さん



厚田には、厚田の土地や味、厚田らしさにこだわって、その魅力を広め、地域を元気にしようと住民有志で活動している「厚田こだわり隊」があります。私は彼らの熱い思いと、楽しく一生懸命取り組む姿に感銘を受け、主にそのお手伝いをしてきました。

こだわり隊が運営する直売所では、昨年度は売り子として携わり、今年度は農家さんから畑をお借りしてレタスなど11種類の野菜を栽培・出荷し、生産者側として携わりました。農作物の栽培は初めての経験で、早朝や炎天下での作業や、害獣・害虫被害の体験をし、農家さんの苦労やありがたみを実感しました。一方で、野菜を購入してくださった方からの「おいしかった!」「子どもが喜んで食べたよ」という言葉が励みになりました。

小島 拓也さん



厚田で“黄色いジャンパーの男”といえば私のこと! どこへ行くにもこの姿でしたが、それは皆さんに顔と名前を覚えてもらうためでした。また、地域内外問わず厚田の魅力を発信しようと、フェイスブックで情報発信をしたり、厚田のお豆腐や燻製などを札幌で売ったりと、どんどんPR! 隊員同士の交流の場でも積極的に厚田の宣伝をしたため、実際に厚沢部や鳥取などほかのまちの隊員が厚田へ足を運んでくれました。本屋のない厚田に“1日本屋さん”を開こうと企画した「北海道ブックフェス」も楽しかったですね。ほかにも、除雪や農作業、そして港での網はぎのお手伝いなど、どれもいい経験になりました。そんな仕事のあとに見る厚田川河口の夕日が、疲れも吹き飛ばすくらいにきれいで…帰り道は厚田の美しい風景にいつも癒されています。



(上)ビューティフルハミングバードのライブも企画
(下)初代「魚や・くまさん」の有田さんと



シャコの網外しにも挑戦! おいしくて、魅力たっぷりな厚田の海の幸をこれからは2代目「魚や・くまさん」として販売します!

地域おこし協力隊

活動を振り返って & 今後の抱負

沼倉 瞳さん
(前居住地: 中札内村)

十勝生まれの私にとって海のあ
るまちはとても魅力的! 11月の
雷を見ながら「そろそろハタハタが
とれるなあ」と独り言をつぶやい
たり、慣れてもない吹雪を「たい
したことはない!」と強がって、厚田
の人々ぶろうとしていている自分
に時々ハッと気がつき笑ってしま
います。そんなことをしている私は
まだまだ「よそ者」かもしれませんが、
いつか本物の「厚田の人」になるこ
とが目標です。



小島 拓也さん
(前居住地: 江別市)

協力隊の任期
は最長3年です
が、私は3月で卒業します。そして
4月からは厚田の海産物や特産
品を移動販売する「魚や・くま
さん」の業務を引き継ぎます!
今、厚田に暮らして、とれたての
旬の魚を食べることが出来る幸せ
をしみじみ感じています。この魅
力を新しい仕事を通じて、たくさ





浜 益

地域おこし協力隊_活動報告



(上) 浜益小学校で開いた「おもてなし教室」

(下)「カフェ・ガル」で抹茶シフォンケーキを販売

瀧 税子さん



私たちの大きなミッションに、浜益の旧適沢コミセンで営業する「カフェ・ガル」の運営支援があります。「カフェ・ガル」は地元のお母さんたち有志が、地元食材を使ったおいしいご飯を提供するお店で、6月から9月までオープンしています。これまで経験のない仕事に初めは戸惑いましたが、2年目にはほかのスタッフと相談しながら、新メニューの開発や運営方法の改善にも取り組みました。私たちの出身地である静岡の抹茶を使ったシフォンケーキは、おいしいと好評!一緒に運営をしてきたスタッフの皆さんと信頼関係もでき、新たな試みも応援していただけたことがうれしかったです。昨年夏には静岡からの旅行ツアーを浜益に呼び、「カフェ・ガル」で活きのいいホタテを食べていただき、ホタテの殻むき体験のほか、静岡ではできないサクランボ狩りも大変喜ばれました!

瀧 勝明さん



浜益に住むようになって感じたのは、地域の方が気軽に集える場が少ないことでした。そこで、皆さんが楽しんだり交流する機会をつくりたいと思うようになり、「カフェ・ガル」でホールスタッフとしてお手伝いしながら、「協力隊カフェ」や「健康マージャン教室」などを企画しました。小学生と高齢者の方向けにそれぞれ「映画上映会」も行い、ここではみんなで泣いたり笑ったりと一体感があって、いつも以上に映画の世界にのめり込みました。私はスポーツが大好きなので地元少年野球団の指導にも携わっていますが、冬は自宅にこもりがちになるので、運動不足解消にと昨年12月から地域の体育館でスポーツクラブを立ち上げました。フットサルとバスケットボールを楽しんでいてなかなか好評なんです。メンバーも徐々に増え、今では10人ほどになりました。



(上)「生きがいづくり学園」の卒園式で
(下)地元少年野球団「フェニックス」の子どもたちと

地域の大人と中学生と一緒に浜益の未来を語る「浜益フォーラム」を開催。和気あいあいとした雰囲気の中、浜益を元気にするアイデアが飛び交いました。

隊員としてこれまで、地元の方々、が楽しく交流できる場をつくらうと、いろいろとイベントなどを企画してきました。今年は隊員として最後の年になりますので、集大成としてより多くの方が楽しめるようなイベントを企画していくつもりです。また、春夏秋冬それぞれに良さがある浜益を北海道内・外にPRしていきますので、これからも応援よろしくお願いします!

瀧 勝明さん
(前居住地:静岡県)



瀧 税子さん
(前居住地:静岡県)



「カフェ・ガル」は、リピーターは多いのですが新規のお客さんが増えないのが悩みです。そのため、自慢の味とロケーションを広く知ってもらうために、そのPR用にガルで好評の「ハンバーグ定食」の素材を使ってハンバーガーを開発中です。地域内外のイベントなどで販売をすることで「カフェ・ガル」、ひいては浜益に足を運んでももらえるきっかけをつくりたいと思っています。

みんなの方に伝えていけたらと思っています。